令和４年度 教員研修高度化支援
教員研修の高度化に資するモデル開発事業

テーマ４　デジタル技術を活用した指導主事訪問の高度化や各学校の研修主事への支援など、教育委員会と教育センターによる学校へのサポート機能の充実に関すること

研修観の転換と教師の主体的・協働的な学びを実現するための大学と教育委員会との連携による「共創型学校支援システム」の構築

成果報告書

国立大学法人　福岡教育大学

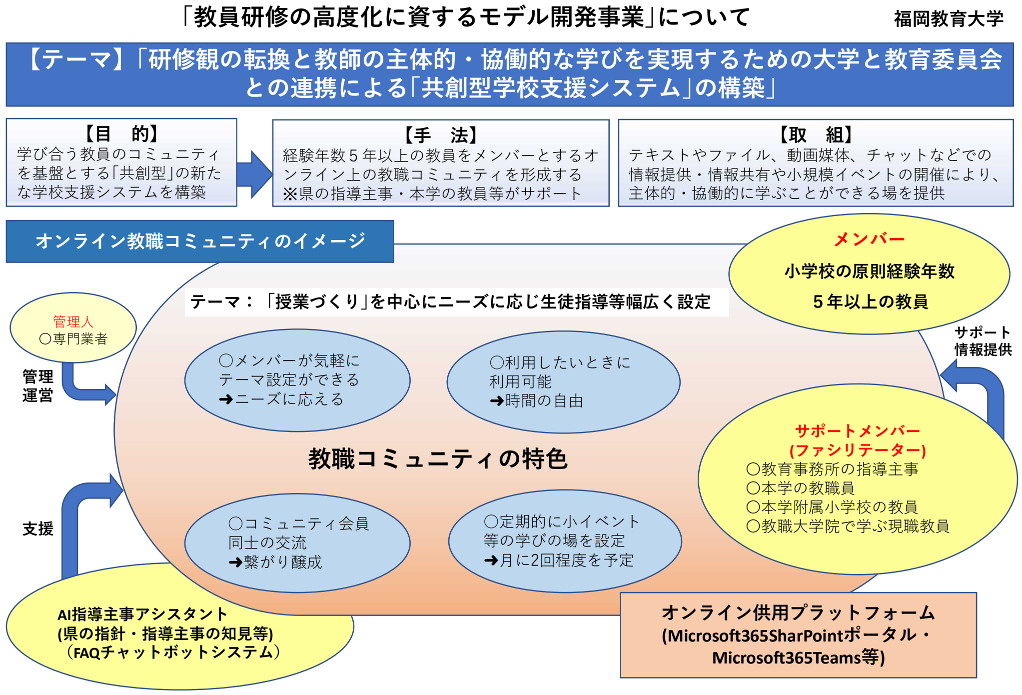
令和６年３月

はじめに

近年の学校現場において、教員の大量退職・大量採用等を背景として、指導力に不安のある若年教員の人数が急増しています。対して、指導経験が豊富で本来若年教員を牽引するべきミドルリーダー層が薄くなっており、若年や経験年数の少ない教員が校内研修や授業研究等において中核的な役割を担っているケースが多く見られます。そのため、指導技術の継承等を効果的に行うことが難しくなっていると指摘されています。

また、教育委員会の指導主事についても、行財政改革の影響で人員の削減が行われる一方、業務が多岐にわたり多忙化を極め、学校現場への指導や支援が十分できていない状況があります。

このような状況の中、「良い授業」を実践するためのスキルや力量の向上を図るために、指導主事業務の効率化・高度化を図る必要があります。大学と教育委員会が連携した新たな学校支援システムとして、オンラインを活用した教員による教職コミュニティの構築を目指し、教職コミュニティ共用プラットフォーム（COMES Net）を開発しました。



本事業によって開発した教職コミュニティあるいはそのモデルを教育委員会等で実施される教員研修等で活用し、教職の高度専門職化につなげていただければ幸いです。

最後に、本事業にご協力いただきました福岡県教育委員会および教育センターの皆様、管内各教育事務所の皆様、小学校の教職員の皆様、そのほか関係の皆様に感謝申し上げます。

目　次

はじめに

1．事業概要
（１）課題意識 ・・ 1
（２）事業の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
（３）取組方法 ・・ 3
（４）実施体制・教育委員会等との連携 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

2．教職コミュニティ共用プラットフォーム(COMES Net) の開発
（１）COMES Net の仕様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
（２）COMES Net の評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

3．まとめ　オンライン教職コミュニティのターゲット・戦略
（１）Vision の明確化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
（２）コミュニティ参加者への価値提供 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
（３）コミュニティ醸成のステップ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
（４）今後の展開 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

4．資料

- COMES Net 機能・操作手順・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

1.事業概要

(1)課題意識

『「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）（令和４年 12 月中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の在り方特別部会）』では、令和３年答申で示された理想的な教師及び教職員集団の姿を実現するための今後の改革の方向性として、子供たちの学び（授業観・学習観）とともに教師自身の学び（研修観）を転換し、「新たな教師の学びの姿」（個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じた「主体的・対話的で深い学び」）を実現すること等が示された。今後は、教育委員会における教員育成指標等に基づく体系的な研修や、研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励の仕組みが適切に用いられながら、各学校において行われる校内研修や授業研究などの「現場の経験」を含む「同僚等との学び合いの場」が効果的に活用されることが重要である。

各学校において行われる校内研修や授業研究などは、研修主事や研修主任・研究主任が中心となって行われることが多いが、近年の学校現場では、教員の大量退職・大量採用を背景に、指導技術等の継承が図りづらい状況にあることに加えて、年齢構成や経験年数の不均衡も生じており、研修主任や研究主任を、若年や経験年数の少ない教員が担当せざるを得ないケースも生じている。また、教員の働き方改革の推進も近年の学校現場における大きな課題であり、研修におけるコストパフォーマンスの観点からも、教育委員会等によるサポート機能のより一層の充実が求められている。

一方で、教育委員会はその所管する学校における教師の学びに最も重要な役割を担っており、これまでも管内の学校を担当指導主事が定期的に訪問し、学校や所属する教師の実態把握や校内研修の指導等を行うことで、日常的な支援を行ってきているが、教育委員会の指導主事の業務も多岐にわたり多忙を極めていることから、教員同様に働き方改革の推進が課題となっており、大学や民間機関等による教育委員会へのサポートがこれまで以上に求められている。

そこで、各学校へのサポート機能の充実を図るために、大学と教育委員会との連携による、「新たな学校支援システム」を構築する必要があると考える。そして、新たな学校支援システムを構築することで、指導主事の業務の効率

化・高度化を図ることや、教師の研修観の転換と主体的・協働的な「新たな教師の学び」の実現に寄与することができると考える。

(2)事業の目的

（1）で述べた課題認識を踏まえて、本事業では、教育委員会と大学が連携して、教師の研修観の転換と主体的・協働的な学びを実現するための、新たな学校支援システムを構築することを目的とする。

現状は、指導主事（教育委員会）から研修主任・研究主任など*（学校）に対して、同期／集中（時間も場所も合わせる）方式により指導助言を行うという、いわば「指導助言型」の支援が主であるといえる。しかし、オンラインやウェブ会議などのツールの普及により、「分散＝場所を合わせない」方式での支援が可能となり、現状と比べて、支援の幅を拡大することができる状況にある。

そこで、本事業では、学び合う教員のコミュニティを基盤とする「共創型」の新たな学校支援システムを構築することを提案する。具体的には、オンライン方式を取り入れた教職コミュニティを形成し、本学がマネジメントするデータベースと連携させ、コミュニティ内に情報を蓄積し、教育実践（経験）の概念化を図る。あわせて、指導主事の有する知見やノウハウを蓄積したAI指導主事アシスタント（チャットボット）を構築し、研修主任・研究主任が主体的に必要な情報にたどりつくとともに、研修などにおける悩みごとや困りごとに対するヒントを自ら得られるようナビゲートする。

本事業は、研修主任・研究主任の支援に焦点を当て実施するが、この学校支援システムを各指導分野に拡大することで、あらゆる層の教員にとって有効で汎用性の高いシステムモデルとなると考える。

目的は、以下の２つである。

目的１：オンライン上での教職コミュニティの形成　①

研修主任・研究主任をメンバーとし、本学教職員（指導主事経験者含む）、本学附属学校教員（長期派遣研修員含む）をサポートメンバー（ファシリテー

ター）とするコミュニティを形成する。コミュニティ内では、チャットや、大学がマネジメントするデータベースによるテキストやファイル、動画媒体などでの情報提供・情報共有を行うなど、メンバーの主体性を尊重しつつ、協働して学ぶことができる場とする。

オンライン上での教職コミュニティの形成・活用は、校内研修・授業研究の企画や実施に資する情報提供や教員（研修主任・研究主任）の困り感の解消に機能する（同期／分散方式あるいは非同期／分散方式）。このことにより、指導主事の学校支援にかかる業務内容は、同期／集中方式で対応すべき内容に精選される。さらに、データベースをマネジメントする大学にとっては、コミュニティ内のアクセスや活用状況を観察・分析することで、現代的教育課題の把握（データベースのアップデート）にも資するものである。

目的２： AI指導主事アシスタントの構築・運用　②

コミュニティメンバーが、コミュニティ内外の必要な情報にたどりつけるようにナビゲートする役割として、指導主事の知見やノウハウを集積したチャットボットを構築・運用する。これは、若手研修主任・研究主任の困り感の解消に機能するとともに、指導主事の業務の軽減と高度化に資するものである（非同期／分散方式）。つまり、チャットボットが支援業務の基礎的領域に適切に活用されることで、指導主事は同期／集中方式で対応すべき支援業務に集中することができる。

*研修主事は、令和４年８月31日施行の「学校教育法施行規則の一部を改正する省令（令和４年文部科学省令第29号）」により、置くことができるとされていることから、「改正教育公務員特例法に基づく公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針の改正等について（通知）（令和４年８月31日付、４文科教第816号）」の「３.留意事項　第二」の内容も踏まえて、本事業においては、研修主任や研究主任を包含するものとして取り扱うこととする。

(3)取組方法

Microsoft365をベースにした教職コミュニティ共用プラットフォームを開発する。その過程では、各機能の試行を実施し、必要に応じて機能の見直しを行う。見直しに際しては、レイアウトだけでなく、機能の追加や設定の変更等

の修正を行い、利用可能性を向上させる。開発の経過は、表1に示すとおりである。

表 1.1 システム開発の経過

4～8月	・連携機関との調整 ・システム構築の準備
9月	・システム構築開始 ・参加者募集の呼びかけ
10月	・システムの構築と検討
11月	・参加者の登録完了 ・マニュアル完成
12月	・テスト運用開始
３月	・イベントの実施

(4)実施体制・教育委員会等との連携

学内の実施体制として、教育実践や教員研修に精通したメンバーを中心に、附属小学校の教職員にも協力を得た。学外の教育機関として福岡県教育委員会および福岡県教育センター、各教育事務所と連携した。

所属部署・職名	氏　名	役割分担
○理事・副学長 （教員研修支援センター長）	木原　茂	事業全体総括
○副理事 （教員研修支援センター副センター長）	生田　淳一	事業実施総括
○大学院教育学研究科長、 教職大学院・教授	森　　保之	事業実施総括の補助
○附属学校部長 教育学部・教授	坂本　憲明	事業実施総括の補助
○教職大学院・教授	川島　耕司	（2）記載の①にかかるもの
○同上	鬼木　務	（2）記載の②にかかるもの
○教育学部・教授	伊藤　克治	（2）記載の①にかかるもの

○同上 ○教育総合研究所・准教授 ○グローバルラーニングセンター・准教授 ○連携推進課教員研修支援室研修支援コーディネーター ○連携推進課長 ○連携推進課　教員研修支援室長	梅野　貴俊 高良　祐治 元村　美保 小森　晃 濵田　勝彦 池永　朋	（2）記載の①にかかるもの （2）記載の②にかかるもの （2）記載の②にかかるもの （2）記載の①にかかるもの 契約・事業実施に係る事務統括 契約・事業実施に係る事務実施
【連携機関】 ○福岡県教育委員会 教育振興部　義務教育課 主幹指導主事 ○福岡県教育センター 教育経営部長	 後藤　幸雄 井上　修一	 事業実施にかかる情報提供、指導・助言 同上

2. 教職コミュニティ共用プラットフォーム（COMES Net）の開発

(1) COMES Net の仕様

COMES Net は、Microsoft365 を基本システムとするオンライン教職コミュニティ共用プラットフォームである。

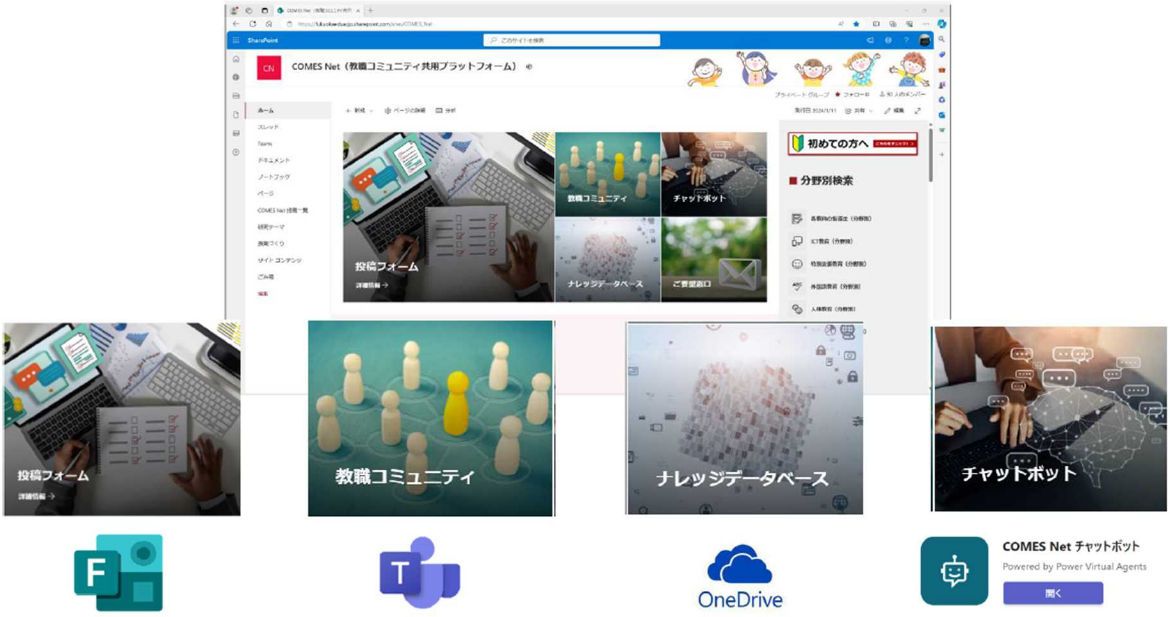


図 2.1 教職コミュニティ共用プラットフォーム（COMES Net）の構成の概念図

この取り組みを支えるプラットフォームの呼称は COMES Net である。COMES Net は、学生が話し合って導き出したこれからの学びの場に必要だと思う要素 Co-Creation、Opportunity、Management、Education、Society の頭文字から作られたことばであり、「まなぶ、つなぐ、ひろがる」をコンセプトにした主体的な学びの場を意味している。COMES Net の主な構成・機能は以下（表 1）の通りである。

表 2.1 教職コミュニティ共用プラットフォーム（COMES Net）の名称・使用アプリケーション・機能一覧

名称	使用アプリケーション	機能

COMES Net	SharePoint	各機能にアクセスできるプラットフォーム機能。
投稿フォーム	Forms	「おたずね（ちょっとご相談）」「チャレンジ（○○してみました）」「お知らせ」といった情報を投稿する機能。
教職コミュニティ	Teams	チャネル（プロジェクトや部署内などで作成するチームでメッセージやファイルのやり取りを行うための機能）の中でやりとりを行う機能。
ナレッジデータベース	OneDrive	学習指導案などの情報のほか、投稿された内容や議論された内容を蓄積する機能。
チャットボット		ナレッジデータベースに蓄積された情報の中から必要な情報を効果的に検索する機能。
リンク集・分野別検索・科目別検索		ナレッジデータベースに蓄積された情報を一覧し効果的に検索を実現する機能。

※各機能の実際については、資料に各機能を使用した際の画面をスクリーンショットしたものを掲載している。

以下、チャネルの実例をいくつか紹介する。

EC Edu Co × システム管理者 2023/12/24 21:42

働き方改革
共通
その他

12/25午前は年休推奨
2023/12/24(Sun) 21:42

【投稿者】
[redacted]
12/25の朝は小さいお子さんがいる家庭はプレゼント開けがあると思います。そんな子供との時間をとることができるように、本校では12/25の午前中は全体での業務は入れず年休取得を推奨しています。

【通知先】
すべてのメンバー

表示数を減らす

3 1

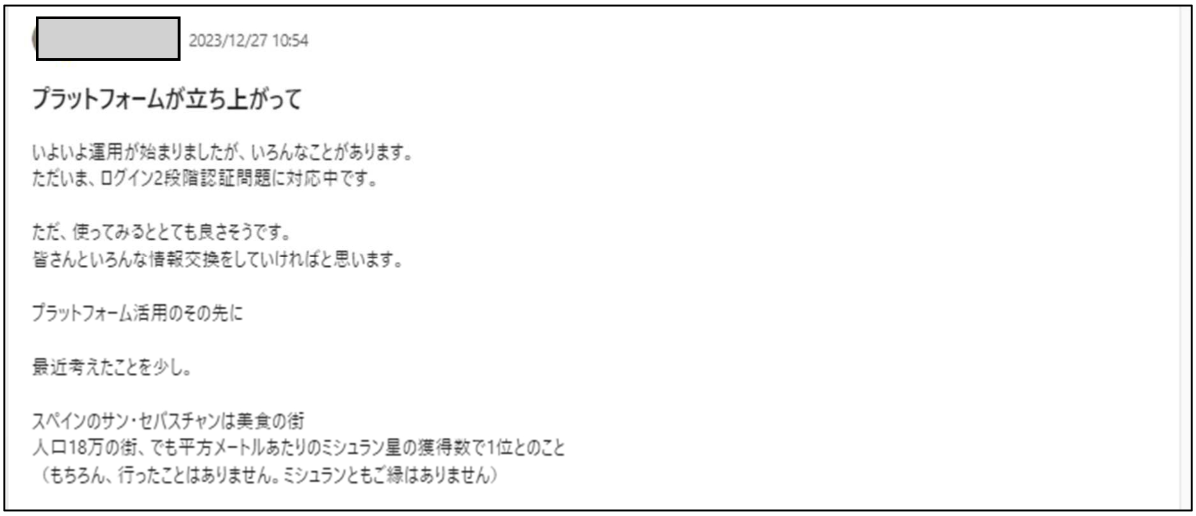
[redacted] 2023/12/25 7:59
素晴らしいです！
3

[redacted] 2023/12/25 10:01
おかげで，プレゼントを開封する嬉しい姿を見ることができました！！
4

[redacted] 2023/12/25 22:02
いろんな取り組みがあるんですね。
各学校に合った形で、できるところから、ですね。

返信

図 2.2 【フリートーク】の例 2023 年 12 月 24 日


[redacted] 2023/12/27 10:54

プラットフォームが立ち上がって

いよいよ運用が始まりましたが、いろんなことがあります。
ただいま、ログイン2段階認証問題に対応中です。

ただ、使ってみるととても良さそうです。
皆さんといろんな情報交換をしていければと思います。

プラットフォーム活用のその先に

最近考えたことを少し。

スペインのサン・セバスチャンは美食の街
人口18万の街、でも平方メートルあたりのミシュラン星の獲得数で1位とのこと
（もちろん、行ったことはありません。ミシュランともご縁はありません）

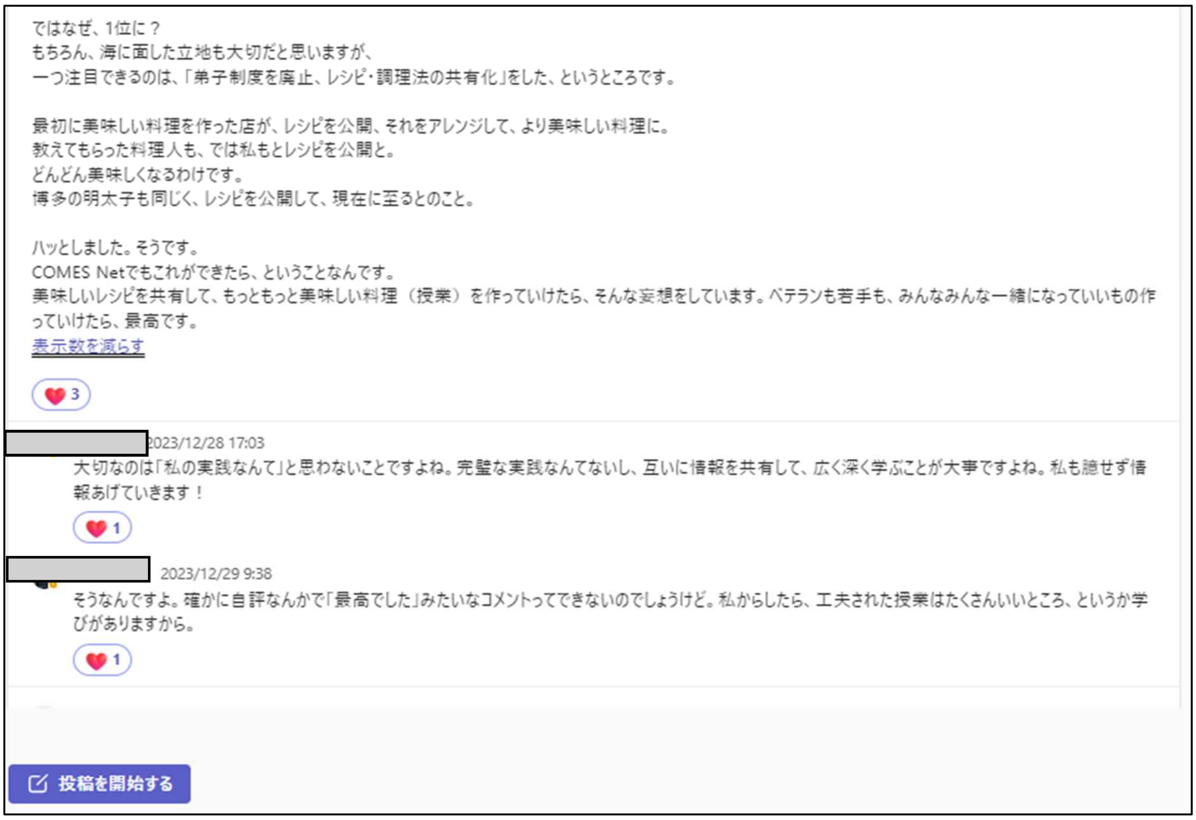


図 2.3 【フリートーク】の例　2023 年 12 月 27 日

○「フリートーク」では、授業づくりの実践に限定されることなく、日頃共有されにくい、学校改善に資するグッドプラクティスが共有されることがわかった。このような気遣いや職員の働き方改革（グッドプラクティス）は、職場のモチベーションの向上につながるはずである。チャネルでの「フリートーク」はこのような良い取り組みが広がる機会となる。

○コラムのような投稿もあることで、教育に関する考え方に言及した内容から価値観を共有し、互いに刺激を受ける場となった。

図 2.4 【おたずね（ちょっとご相談）】の例　2023 年 12 月 27 日

図 2.5 【おたずね（ちょっとご相談）】の例　2023 年 12 月 30 日

図 2.6 【おたずね（ちょっとご相談）】の例　2024 年 1 月 7 日

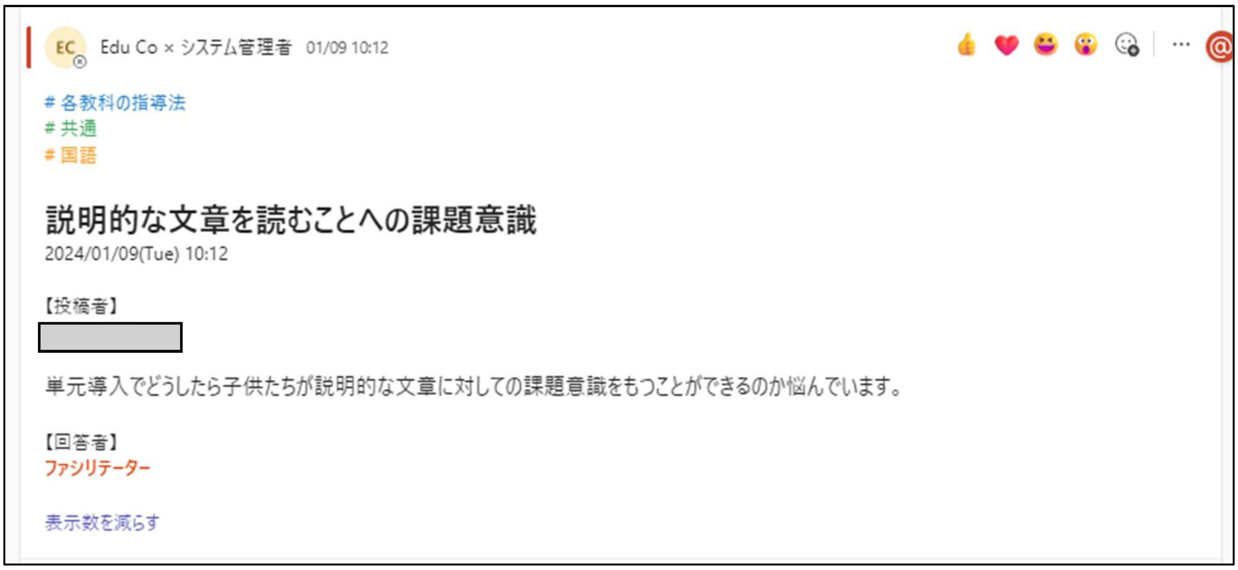


図 2.7 【おたずね（ちょっとご相談）】の例　2024 年 1 月 9 日

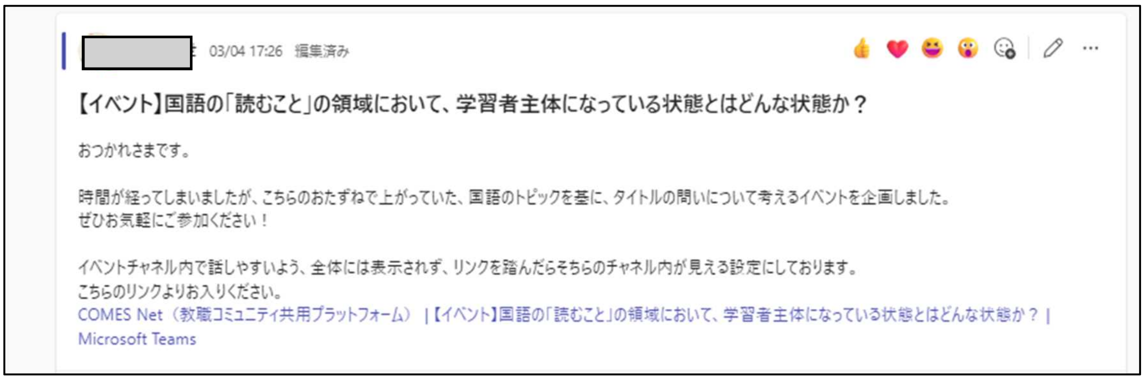


図 2.8 【おたずね（ちょっとご相談）】から派生したイベント

○投稿フォームから「おたずね（ちょっとご相談)」が一番多く投稿された。内容については、国語や道徳、インクルーシブ教育についてが最も多かった。
○国語に関する質問が多かったため、イベントを立ち上げ交流を図った。今年度は附属小の教諭が中心メンバーであるため、２月の研究発表会の時期を考慮し、３月にイベントを開始した。
○おたずね（ちょっと相談）のトピックにおいて、交流を促進するためには、「単純に回答がでるトピックでないこと」、「共に考えたり議論したりしたいというコミュニティの温度が上がっていること」、「安心して発言できる場づくり」が必要であると感じた。

図 2.9 【お知らせ】の例　2023 年 12 月 24 日

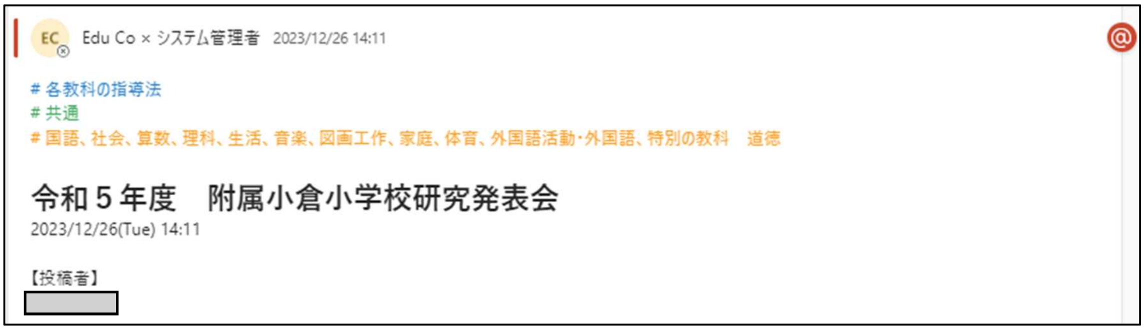


図 2.10 【お知らせ】の例　2023 年 12 月 26 日

図 2.11 【お知らせ】の例　2023 年 12 月 27 日

○「お知らせ」のトピックでは、研究会やイベントを告知することに活用された。教員が安心して発信できる場があることは、発信側にも受信側にもメリットがあると考える。

○本オンラインコミュニティから、さらに外の世界の学びへの接続が期待できる。

EC Edu Co × システム管理者 01/05 10:19

各教科の指導法
低学年
算数

算数科１年「かずをせいりしよう」のICTを使った指導

2024/01/05(Fri) 10:19

【投稿者】

[redacted]

算数科１年「かずをせいりしよう」の学習でICTを活用してデータの整理ができないか試した実践です。

【添付資料】

算数科１年「かずをせいりしよう」_78649368 78649368.pdf

【通知先】

すべてのメンバー

表示数を減らす

👍 1 ❤ 1

[redacted] 01/05 13:15

ひとり一人で操作、繰り返しできる、ところ、ICTのよさが発揮されていますね。繰り返し操作できる場づくりはとても大切だと思います。加えて学習ログとしても残せるので次の学習に活かせそうですよね。

[redacted] 01/09 14:34

コメントにも書きましたが、本事例では、動物の数の違いを絵グラフ化して比べるために、それぞれの動物の大きさ（高さ）をそろえなければなりません。しかし、従来の絵カードでは大きさを自由に変えることができないので、このような数学的活動はできませんでした。

本実践ではICT機器を活用することによって、子どもたちが絵カードの大きさを自由に変えながら高さをそろえるという数学的活動を実現しています。ICT機器を活用した現代的な算数の指導であると思います。

表示数を減らす

返信

図 2.12 【チャレンジ（〇〇してみました）】の例　2024 年 1 月 5 日

〇「チャレンジ（〇〇してみました）」のトピックでは、実際の指導事例も添付され、実践報告の場となった。ICT は近年急速に進化している領域であり、このような実践が蓄積されていくことで、更なる実践の生産が期待できる。

（2）COMES Net の評価

令和６年１月、各連携機関（福岡県教育庁義務教育課、福岡県教育センター、教育事務所（福岡県下６教育事務所：福岡、北九州、北筑後、南筑後、筑豊、京築）でのヒアリングを実施した。以下にその概要を述べる。

① 利用可能性：いつでも利用でき利便性が高い。

オンラインのよさが発揮されており、いつでも使えるのがよいという意見が多かった。しかし、ICT の環境によっては利用が難しい場合もあり、今回開発したシステムを運用するうえでは Microsoft365 のアカウントを所持しているか否かに影響を受ける。たとえば、福岡県下に展開する場合には、すべての教職員にアカウントが与えられているわけではない。また、福岡県の場合、児童・生徒が利用する端末の７割は Chromebook が導入されているという実態もあることがわかった。Teams や SharePoint へのログインの障壁が大きく、参加自体のハードルが高かった。このことについては、自治体ごとの環境の違いが大きく、セキュリティの設定も様々で、職場環境からはプラットフォームに簡単にアクセスできないケースもあった。２段階認証の設定などで苦労するケースもあり、導入時のサポートを丁寧にする必要があることが指摘できる。

② 期待：「まなぶ、つなぐ、ひろがる」学びの場を柔軟に広げていける。

物理的な距離を越えたコミュニティが実現することに期待がもてる。たとえば、中学校の場合、教科によっては学校あるいは自治体に担当教員が１名しか在籍していない、という状況もあるが、特にそのようなケースでオンラインのコミュニティのニーズが高い。また、潜在的には学びの場を求めている教員も多く、一人一人の教員が自らの問いを探究できるような自己研鑽の場として価値があるといえる。共創型の学びの場で子供の姿から教育実践を語り合うことで、新しい教育を創造することができるのも魅力となる。

③ 新機能の提案：先行する取り組みとの差別化が必要になる。

これまでのオンライン上のプラットフォームにはなかったオリジナリティを生み出す必要がある。情報が共有されるだけでは、ほかの取り組みとの差別化がなされない。Yahoo!のベストアンサーのような機能など、参考になるものを取り入れるとよい。料理のレシピ集のように、学習指導案や授業づくりに関する情報が共有できるとよい（【フリートーク】の例 2023 年 12 月 27 日抜粋を参

照）。しかしながら、若年教員も多く、レシピだけで料理を作るのがなかなか難しいのと同じで、よい学習指導案とよい授業実践につなげられないケースも多い。その際、関連する動画（実際の指導場面）とセットで情報提供できれば、格段に再現性が高まることが予想される。たとえば、料理レシピと1分間程度の動画がセットになっているものもある。オンラインの環境を生かしたさまざまな可能性を模索したい。

データが蓄積されている点は非常に評価できる。これまで指導案といった形式上のものしかインターネット上になかったが、本プラットフォームは1つの話題に対しての議論の経過を可視化できることが、オリジナリティとなると考えられる。データベースが充実するとプラットフォームはより魅力的になる。蓄積されるデータも差別化が必要で、これまで意外と蓄積されていない教育論文や研究指定校の研究紀要なども蓄積してほしいといった要望もあった。

【フリートーク】の例 2023年12月27日抜粋

スペインのサン・セバスチャンは美食の街 人口18万の街、でも平方メートルあたりのミシュラン星の獲得数で1位とのこと（もちろん、行ったことはありません。ミシュランともご縁はありません） ではなぜ、1位に？　もちろん、海に面した立地も大切だと思いますが、 一つ注目できるのは、「弟子制度を廃止、レシピ・調理法の共有化」をした、というところです。 最初に美味しい料理を作った店が、レシピを公開、それをアレンジして、より美味しい料理に。教えてもらった料理人も、では私もとレシピを公開と。どんどん美味しくなるわけです。 博多の明太子も同じく、レシピを公開して、現在に至るとのこと。 ハッとしました。そうです。 COMES Netでもこれができたら、ということなんです。 美味しいレシピを共有して、もっともっと美味しい料理（授業）を作っていけたら、そんな妄想をしています。ベテランも若手も、みんなみんな一緒になっていいもの作っていけたら、最高です。

3. まとめ　オンライン教職コミュニティのターゲット・戦略

本事業について、取り組みから見えてきたポイント（①Visionの明確化、②コミュニティ参加者への価値提供、③コミュニティ醸成のステップ）を整理し、オンライン教職コミュニティのターゲット・戦略について検討する。

(1)　Visionの明確化

本事業では、メンバーを小学校の原則経験年数５年以上の教員に限定して実施したが、今後は、５年以内のいわゆる若年教員も対象になりうる。一方で、自己研鑽の場を求めるミドルやベテランにとっても学びの場ともなりうることから、「誰が」欲しているのか、ニーズに応じてコミュニティをコーディネートしていく必要がある（図3.1）。また、理論的には10000人の参加も可能であり、コミュニティの規模感をどう想定するか、セキュリティの確保やトラブルの把握も含めて運用面のコストと利便性のバランスをどう判断するか検討しなければならない。

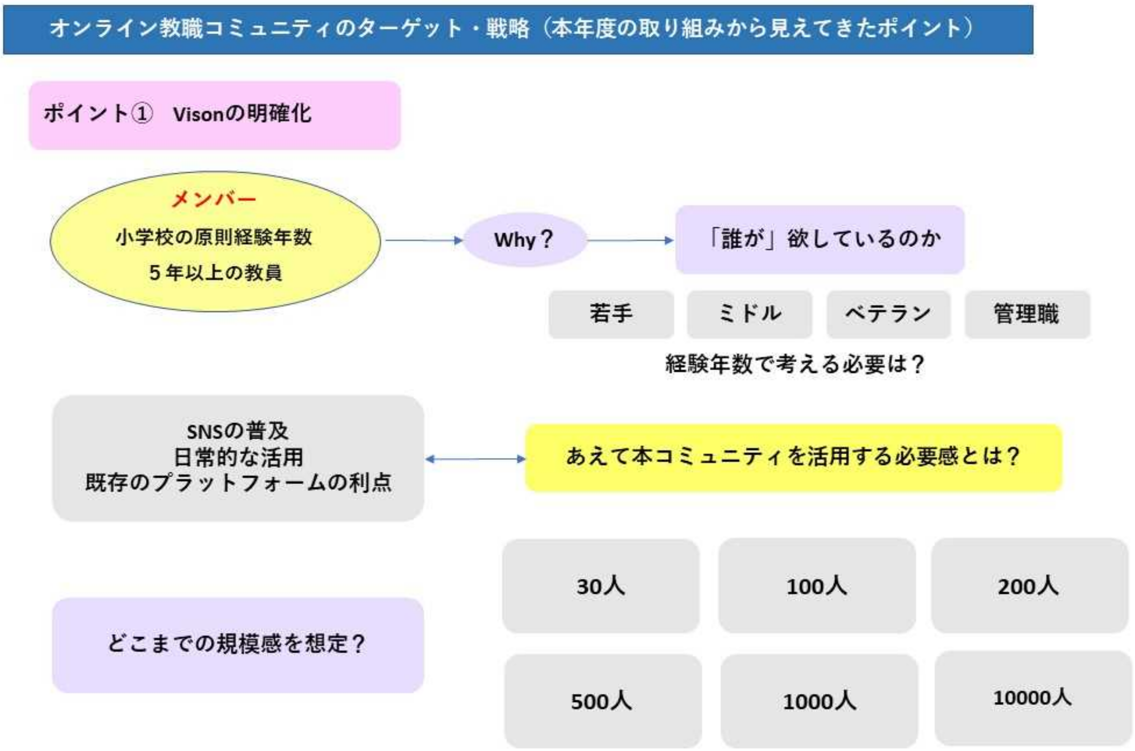


図 3.1　Visionの明確化

（2）コミュニティ参加者への価値提供

想定する人数・対象により、求められる価値も変化する可能性がある。たとえば、10000 人で若手・ミドル・ベテラン・管理職の様々な層が参加するコミュニティと 100 人で若手のみが参加するコミュニティでは、ニーズが異なるはずである。他のプラットフォームと差別化することで、コミュニティ参加者への価値提供を実現したい（図 3.2）。たとえば、本事業が開発したプラットフォームでは、議論の過程が残ること（教師の思考を活性化し、学びを創造できること）や、データベースをチャットボットで検索できること（議論の過程も閲覧できるので、形式的な知ではなく生きた知を追体験できること。信頼できる情報を検索できること）、専門的なファシリテーターがプラットフォームでの学びに関与すること（情報の信頼性とコミュニティの心理的安全性が期待できる）などが、強みと考えられる。COMES Net の「まなぶ、つなぐ、ひろがる」という価値観を追究し、COMES Net だからできることを実現し、強みを磨いていく必要がある。

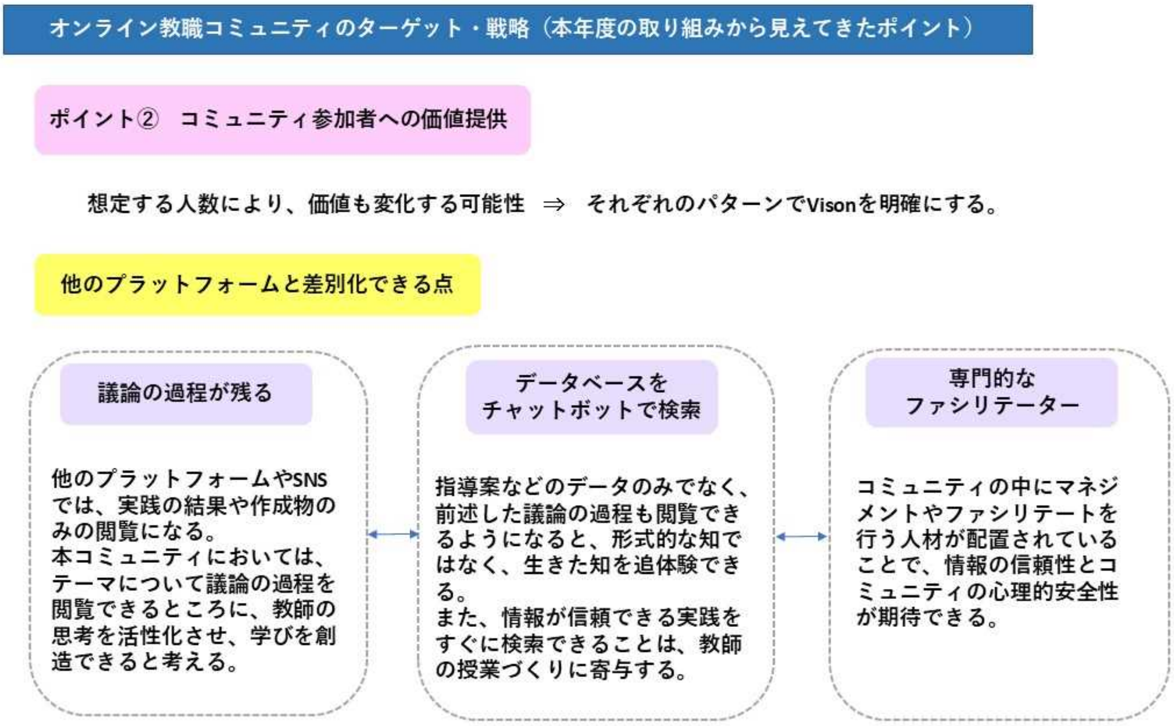


図 3.2 コミュニティ参加者への価値提供

(3)コミュニティ醸成のステップ

そもそものプラットフォームにより実現したい価値観（たとえば、指導助言型から共創型への研修観の転換）が共有されなければ、プラットフォームは魅力を失い、参加者への価値提供はうまくいかない。共創型の学びを実現するには、段階的にコミュニティを醸成していく必要がある。今回の取組でも、ファシリテーター（大学教授）のコメント待ちの状態になったり、意見が出しにくかったりして、指導助言型になりかねない場面も多かった。実名で表示されるため、投稿することに対するハードルが高い。今回、附属小学校の先生方を中心としたコミュニティだったため、そもそも“教員研修が高度化”された集団に対するアプローチとなった。日常の中で活発な議論がされているため、本コミュニティを活用する良さを感じにくい部分があった。

オンラインコミュニティの利点は、校内の情報共有に留まらず、開かれたコミュニティの中で他校の実践等から学ぶことができるところである。本コミュニティは登録制であることから、自ら参加したい、という意志のある先生方にコミットしていく必要がある。しかし、公的に動かすには“働き方改革”による障壁が大きい。

STEP1では、共創というビジョンの共有やログインのハードルを下げ、活用しやすくすることなど、導入を丁寧に行う段階とする。このプラットフォームの良さを伝える資料や動画を作成し、参加の周知を図ったり、様々な学校から集まってくるように、参加者を募ったりする。個に応じた通知設定の仕方を提案したり、キックオフ会（講演会などのイベントなど）を設定し、使用についての説明や目的を共有したりすることが必要である。

STEP2では、知らない人が見ている不安感の解消など、適切なファシリテーションによりつながりの醸成を行う段階とする。個人用のスマホにおけるログインを行い、「いつでも」「どこでも」見ることのできる状態をつくる。

STEP3では、自由闊達に自らの問いを追究する中で、他者と協働し、新たな知見の創造（共創）を実現していく段階とする。

今後は、このような段階を意識し、計画的に活動していく必要がある（図3.3）。

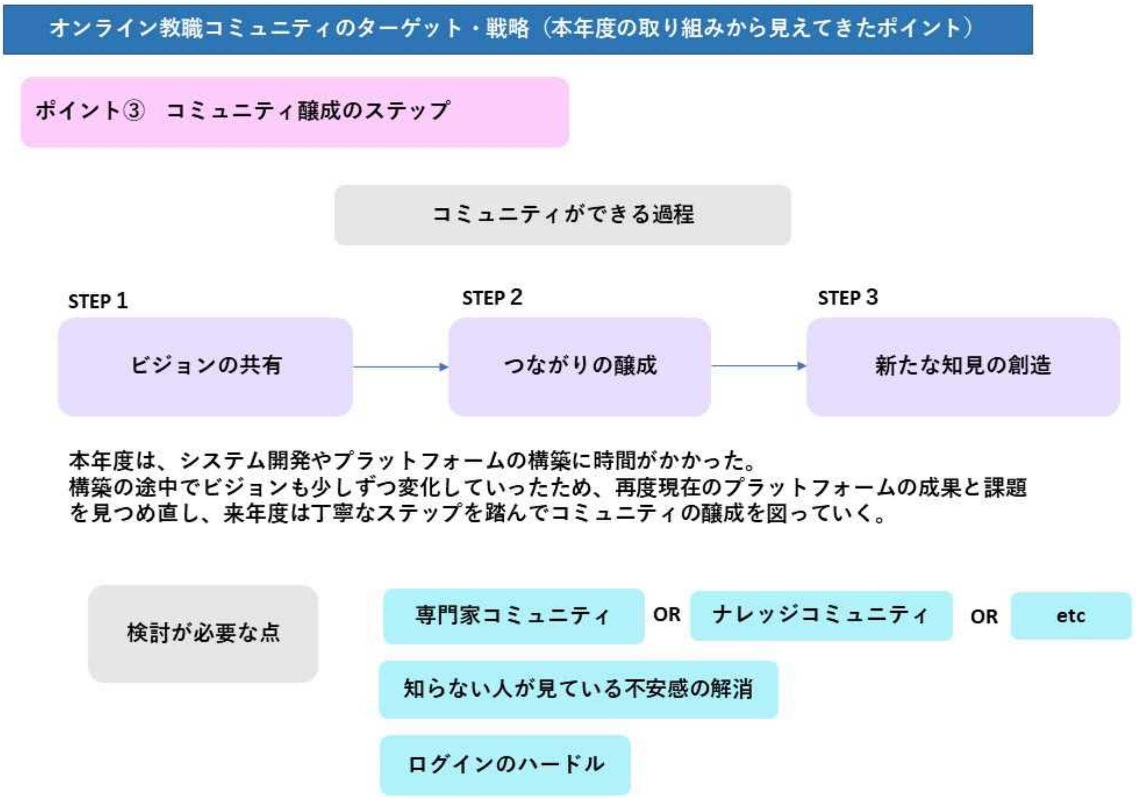


図 3.3　コミュニティ醸成のステップ

（4）今後の展開

教職の高度専門職化に向けた教員研修の高度化が求められる中、各学校の教師自身の研修観を転換し個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、「新たな教師の学び」の姿を具現化し、「令和の日本型教育」を担う理想的な教師、教職員集団の実現を目指す必要がある（図 3.4）。

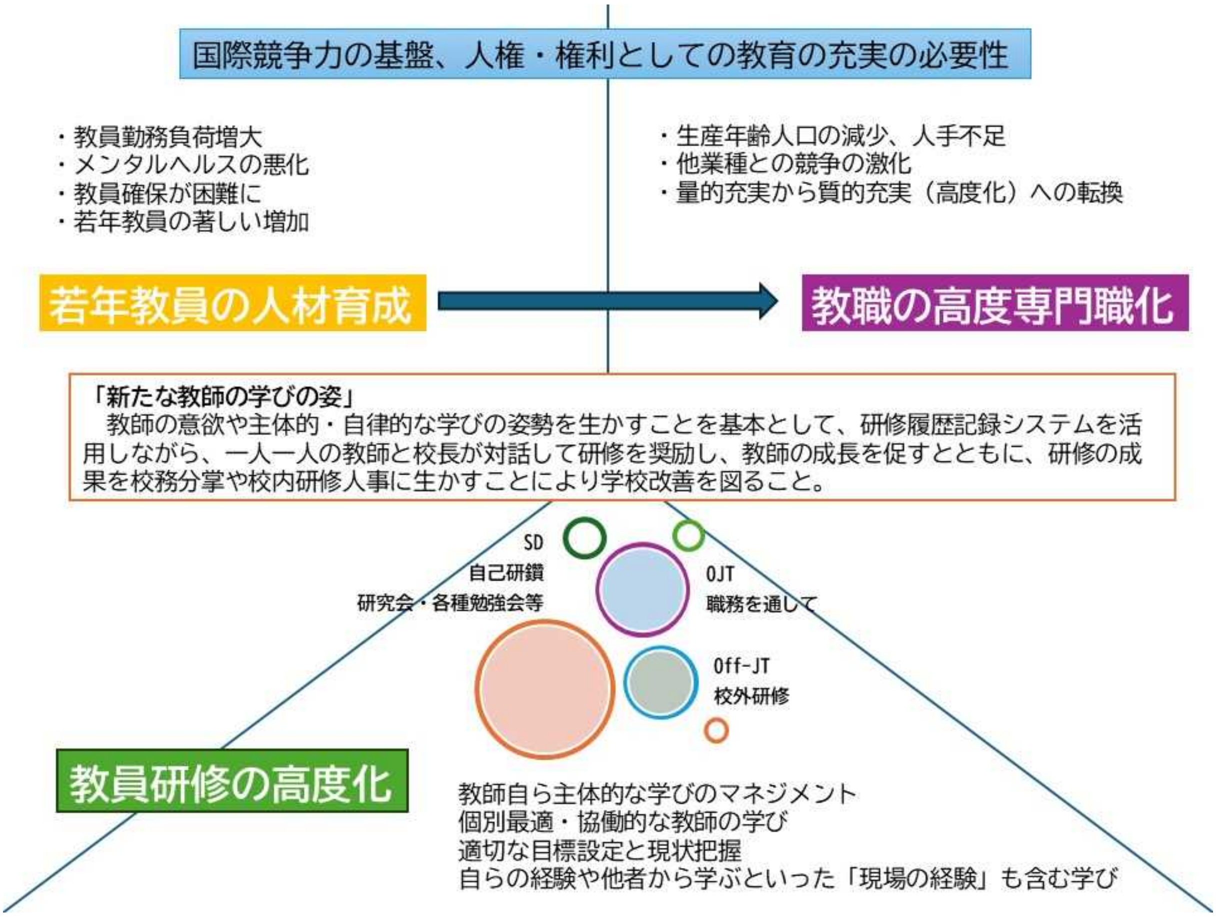


図 3.4 教職の高度専門職化に向けた教員研修の高度化

次年度以降、取り扱う分野を生徒指導、進路指導、学級経営等各分野に拡大し、より汎用性の高いモデルの構築を目指す。本事業では、教職コミュニティと併せてＡＩ指導主事アシスタント(FAQ チャットボットシステム)を構築することとしていた。この点については、期間内に十分な開発が行えなかったが、今後継続して開発を行いたい。将来的には、指導指針や指導主事の知見・ノウハウ等を集積し、必要な情報に直ちにアクセスできるナビゲートシステムとな

る予定である。これを活用することで、コミュニティメンバーが、授業づくり等に係る悩みや課題の解決のヒントを得ることができるようにしたい。

いま共創型の学びの場で子供の姿から教育実践を語り合うことが求められている。本事業で開発した教職コミュニティ共用プラットフォームを活用し、これまでの研修観を転換する自己研鑽のための教員研修の場として、新たな学びの場を確立し、教職の高度専門職化を実現する教員研修の高度化を実現したい。

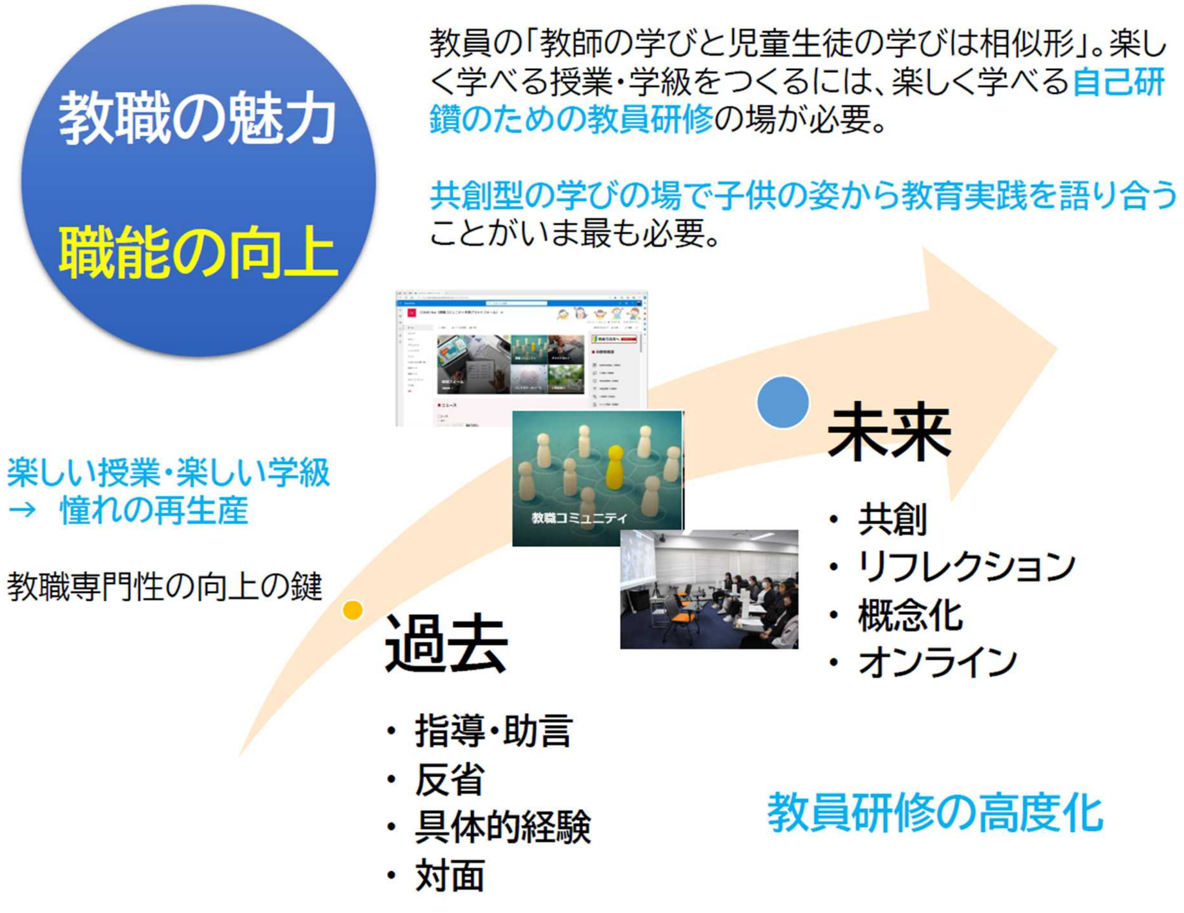


図 3.5 COMES Net による教員研修の高度化

資料　COMES Net 機能・操作手順

図 1　COMES Net の各機能の紹介：トップページ

図 2　COMES Net の各機能の紹介：ホーム、分野別検索、科目別検索

図 3 COMES Net の各機能の紹介：リンク集、ニュース、更新情報

図 4 COMES Net の投稿フォーム

図 5　COMES Net の投稿フォーム：入力画面

図 6　COMES Net の投稿フォーム：対象教科の選択

図 7 COMES Net の投稿フォーム：タイトル等の入力

図 8 COMES Net のご要望窓口

図 9　COMES Net のご要望窓口：入力画面

図 10　COMES Net のチャネル：新しい投稿

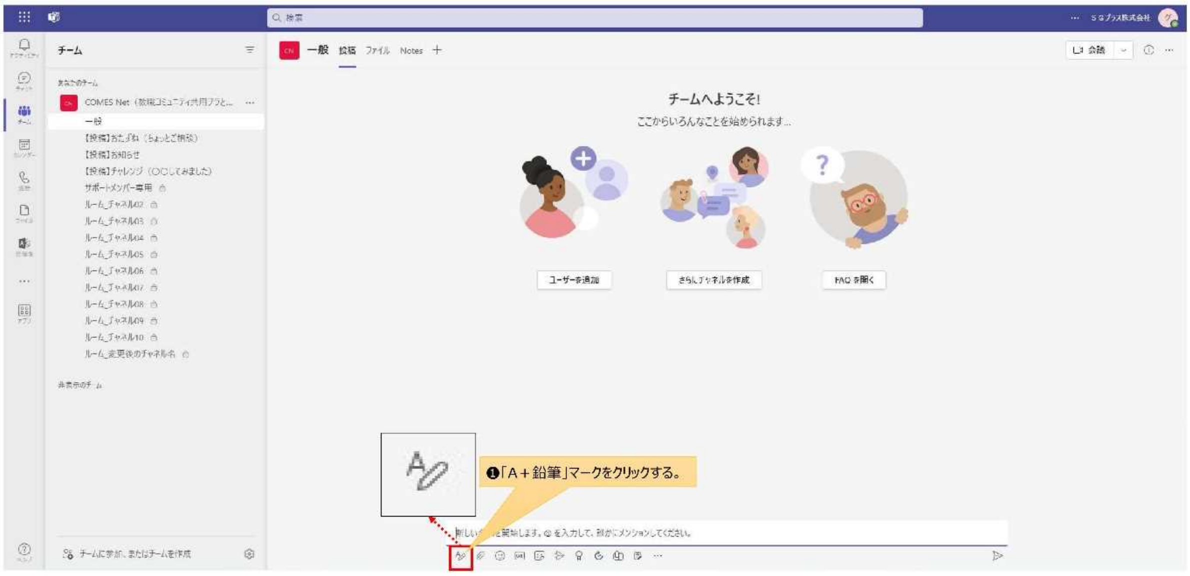


図 11　COMES Net のチャネル：新しい投稿入力画面

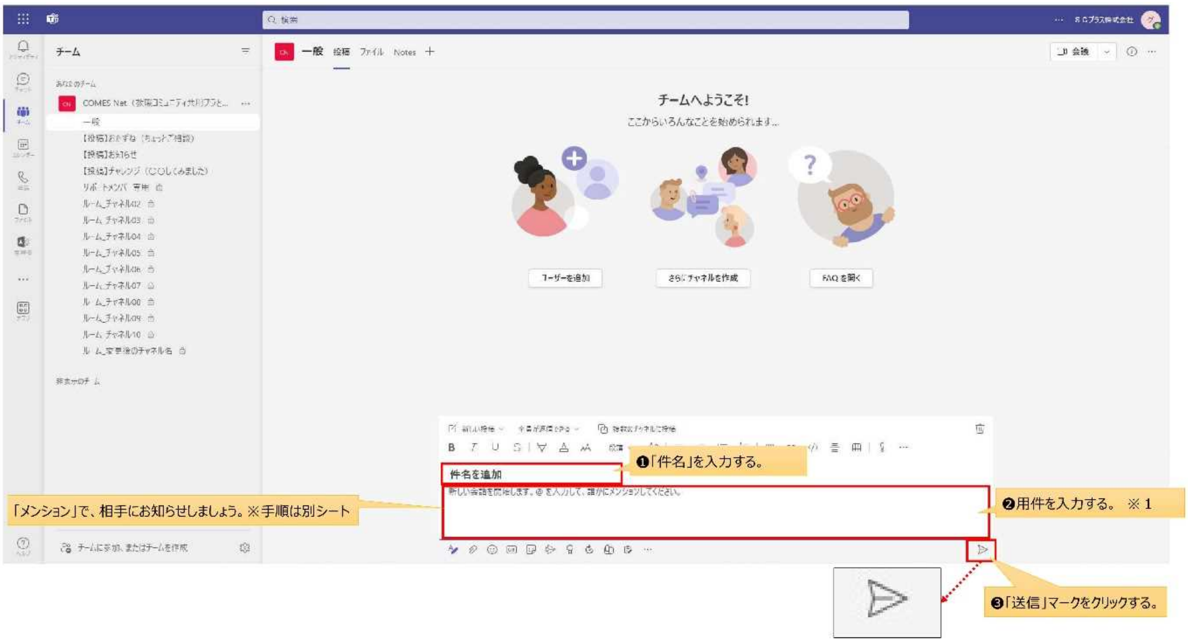


図 12　COMES Net のチャネル：新しい投稿送信画面

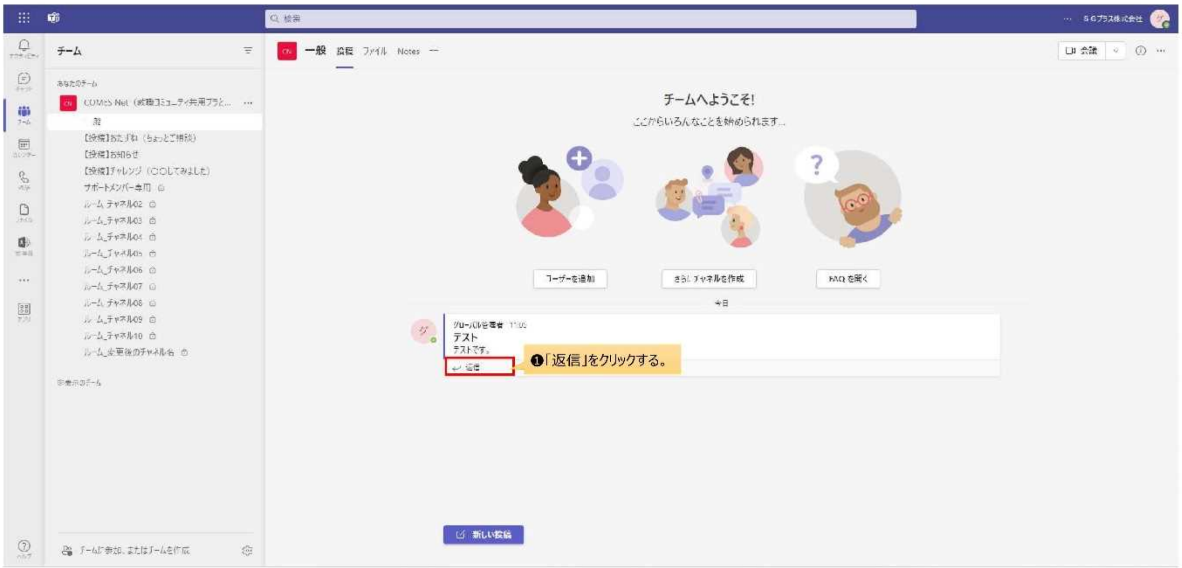


図 13　COMES Net のチャネル：返信画面

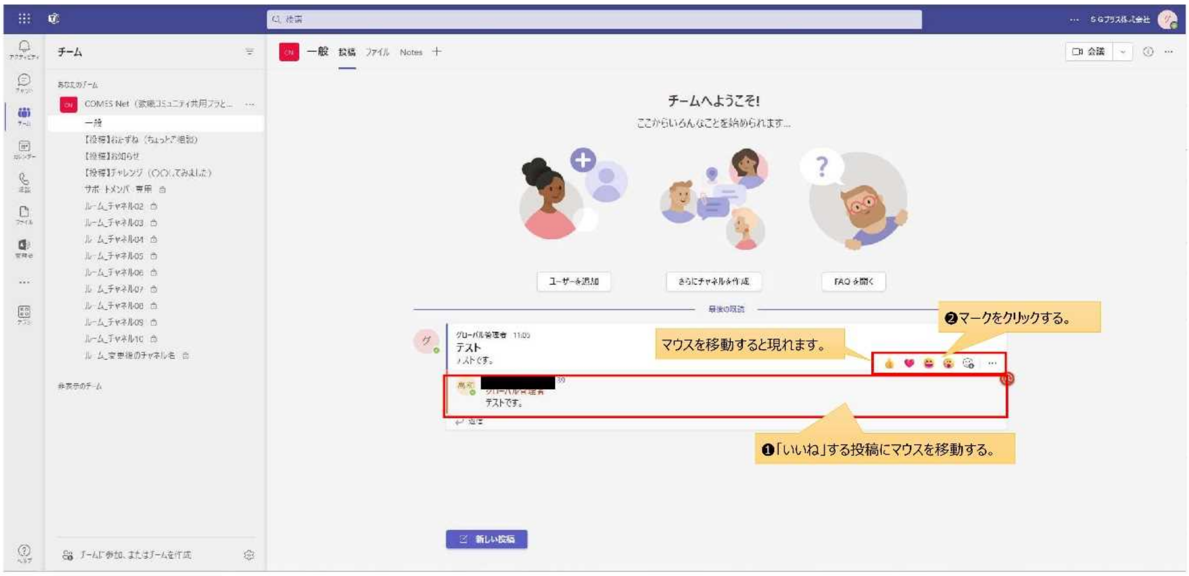


図 14　COMES Net のチャネル：リアクション入力画面（1）

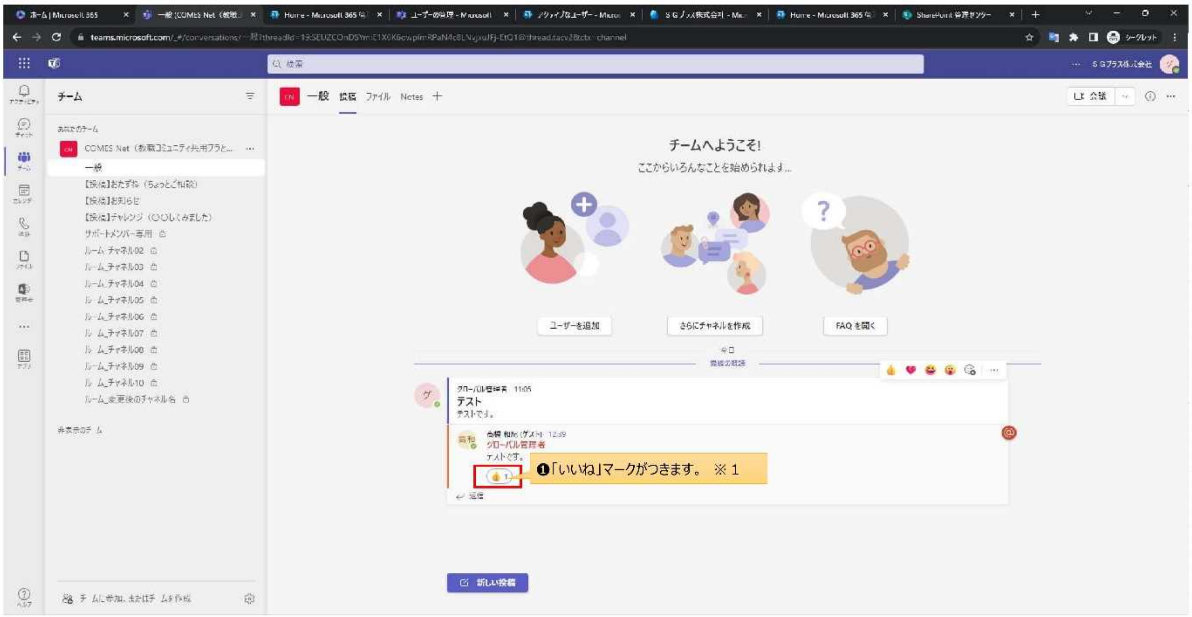


図 15　COMES Net のチャネル：リアクション入力画面（2）

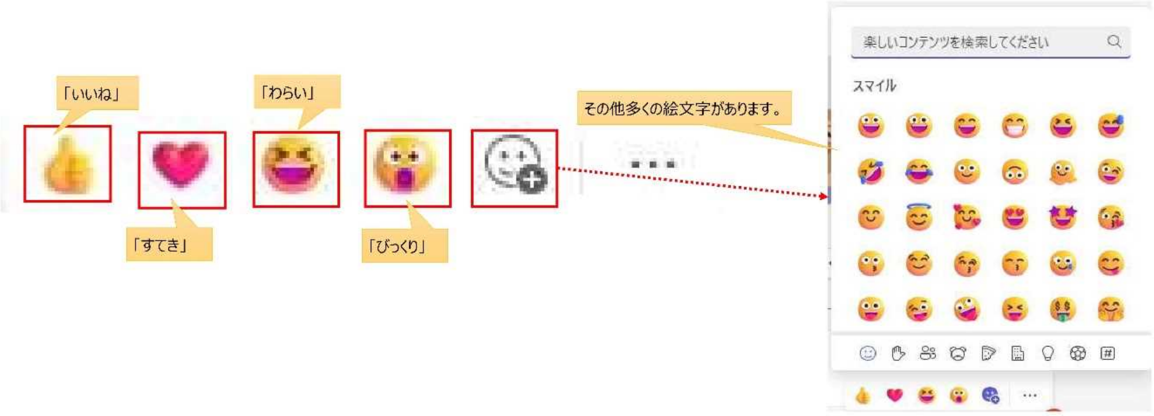


図 16　COMES Net のチャネル：リアクション

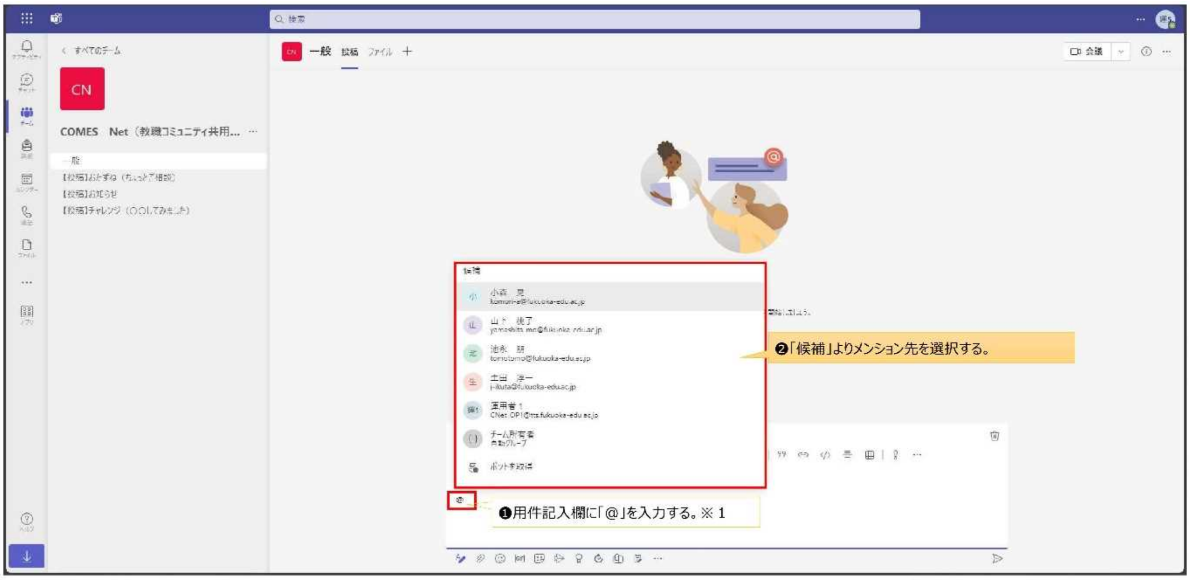


図 17　COMES Net のチャネル：メンションの仕方 （１）

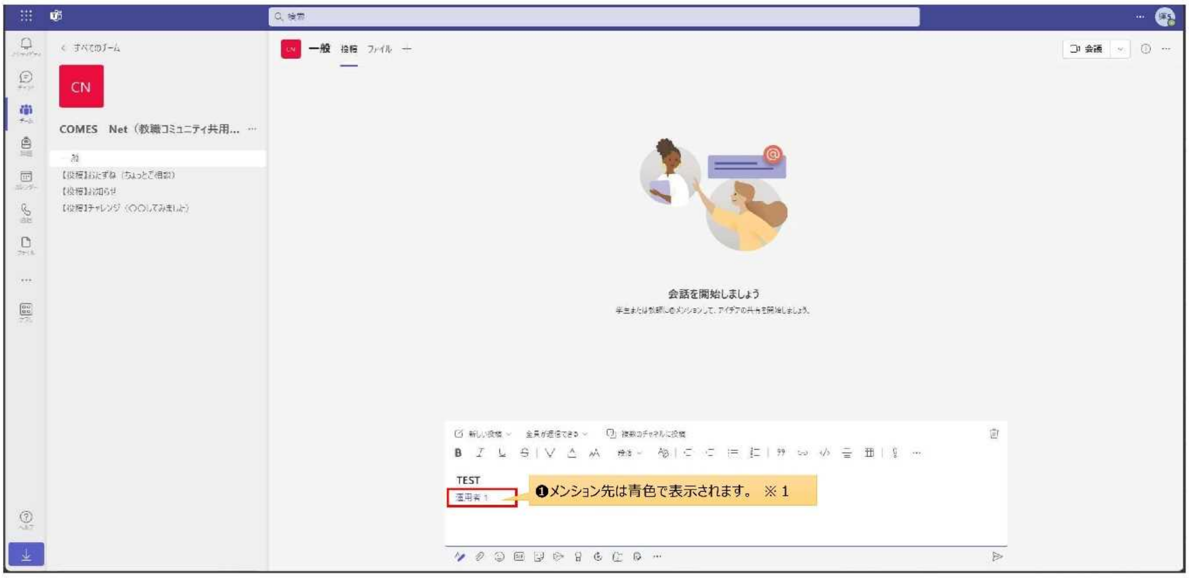


図 18　COMES Net のチャネル：メンションの仕方 （２）

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、国立大学法人福岡教育大学が実施した令和４年度教員研修の高度化に資するモデル開発事業の成果を取りまとめたものです。
従って、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

令和４年度　教員研修高度化支援
教員研修の高度化に資するモデル開発事業

テーマ４　デジタル技術を活用した指導主事訪問の高度化や各学校の研修主事への支援など、教育委員会と教育センターによる学校へのサポート機能の充実に関すること

「研修観の転換と教師の主体的・協働的な学びを実現するための大学と教育委員会との連携による「共創型学校支援システム」の構築」

成果報告書

令和６年３月　初刷刊

編　　著　　福岡教育大学教員研修支援センター
発　　行　　国立大学法人福岡教育大学
〒８１１－４１９２
福岡県宗像市赤間文教町１－５
電　　話　　０９４０－３５－１０１９

印 刷 所　　城島印刷株式会社
〒８１０－００１２
福岡県福岡市中央区白金２丁目９番６号
電　　話　　０９２－５３１－７１０２